

『現在の鎌倉』にみる近代鎌倉の 観光形態と景観の商業的評価に関する研究

押田佳子¹

¹正会員 農博 日本大学理工学部社会交通工学科
(〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1, E-mail:oshida.keiko@nihon-u.ac.jp)

本研究では、『現在の鎌倉』に掲載された「営業一覧」と「広告」からの読み取りより、事業者側から捉えた近代鎌倉の観光形態および景観の商業的評価を捉えた。観光形態では、近世の徒歩観光と新興の療養・保養ならびに海水浴を目的とする別荘滞在型観光が混在したものであったことが捉えられた。商業的価値については、当時最も立地が良いとされた由比ヶ浜の海浜ホテルなどを除いては、由比ヶ浜や周辺海浜へのアクセスはもちろんのこと、施設自体の魅力に海岸眺望の素晴らしさを積極的に掲載しており、海岸景観が持つ象徴的価値の高さが伺えた。

キーワード: 現在の鎌倉, 近代鎌倉, 観光, 景観, 商業的評価

1. はじめに

徳川光圀によって観光都市としての一步を踏み出した古都・鎌倉は、元禄、化政文化期になると十返舎一九や歌川広重など著名人の活躍によって近世徒歩観光の最盛期を迎えた¹⁾。

近代になると、1880 (明治13) 年にエルウィン・ベルツがに鎌倉を保養地として適地であると評したこと、1884 (明治17) 年に医師の長与専齋が由比ヶ浜を海水浴の適地と称したことなどによって、1885 (明治18) 年には日本初の海水浴場である由比ヶ浜海水浴場が開設、1887 (明治20) 年には同じく日本初のサナトリウムである海浜院が由比ヶ浜に開院した²⁾。このような、新たなレジャーおよび滞在様式の発展は、鉄道や自動車の台頭と相俟って、観光客の滞在様式に大きな変化を与えることとなった。

例えば、徒歩観光が主流であった近世には行程2-3日の訪問型であったのが、サナトリウムや別荘が建設された近代には避暑または避寒を目的に季節滞在型となり、これが上・中流階級を中心に広がった。

このような経緯より、近代鎌倉観光は近世とは観光形態、鑑賞対象などが大きく変容したと考えられ、旅行者はもちろんのこと、これを受け入れる地元の事業者にも及ぼした影響も少なくないとみられる。

以上をふまえ、本研究では、近代鎌倉を網羅的に扱った地域案内書である大橋良平著『現在の鎌倉』に着目し、掲載された事業者の営業実態および広告の読み取りより、事業者側から捉えた近代鎌倉の観光形態および景観の商業的評価を把握することを目的とする。

2. 先行研究と本研究の位置づけ

本研究に先立ち、筆者らは紀行文を題材とした近世鎌倉観光に関する既往研究を執筆している。まず一編は、十返舎一九著の紀行文『金草鞋』における観光経路を抽出し、通過地点の景観構成とその観賞形態を捉えている³⁾。もう一編は近世に執筆された代表的な紀行文18文献を網羅的に取り上げ、当時の鎌倉観光の主流経路およびそれを成立させてきた空間的景観の特徴を捉えている⁴⁾。

しかしながら、これらの研究はいずれも旅行者 (観光客) 視点から捉えた鎌倉観光を対象としており、これを受け入れる鎌倉の事業者側の対応についてはほとんど述べられていない。

観光は観光客とこれを受け入れる地域、とりわけ観光に関わる事業者との関係性に依るところが大きく、社会情勢や観光客相の変容を地域がどのように受け取り、対応していったのかを把握する必要がある。

上記の考えのもと、本研究では近代に刊行された案内書に掲載された事業者側の情報より、当時の観光形態と景観の商業的評価を捉えるというものである。

3. 調査対象文献 大橋良平著『現在の鎌倉』

『現在の鎌倉』⁹⁾は、1912(明治45)年に長谷に立地する大旅館・三橋屋に宿泊していた大橋良平によって記された案内書である(図-1)。本書は執筆当時既に発刊されていた他の案内書とは趣旨を異とし、名勝古址の詳細な説明はに加え、近代鎌倉の発展状況についてまで言及している。そのため、交通機関や賃貸賃料、さらには当時鎌倉中に建設された別荘の所有者や分布、学校、営業一覧、広告などが掲載されている。

本書は、鎌倉に関する近代史研究¹⁰⁾の多くにおいて重要な参考文献として取上げられていることより、掲載情報の信憑性が極めて高い文献であると判断し、調査文献に選定した。

本稿では、このうち「営業一覧」と「産業広告」に着目し、読み取り調査を行う。



図-1 大橋良平著『現在の鎌倉』表紙

● 営業一覧	
▲ 銀行 會社	鎌倉町小町 株式會社鎌倉銀行
腰越	同大町原 鎌倉葬儀株式會社
▲ 電氣業	株式會社關東銀行支店
小町	井上電氣店

図-2 『現在の鎌倉』営業一覧における一例

4. 営業一覧にみる近代の産業構成と観光

鎌倉の営業一覧の掲載例を図-2に、『現在の鎌倉』に記載された職種を厚生省の職種分類⁹⁾に基づいて分類した結果を表-1に、字別にみた業種の分布状況を表-2に示す。

営業一覧に掲載された全事業者は、63職種546件であった。

表-1より、これらの業種・職種ごとの傾向をみると、米穀酒類荒物商、菓子舗など16職種を含む商業が195件と最多であり、次いで土木請負業、建具指物職など10職種が94件、桶食や鎌倉彫など工芸が34件であった。

商業のうち米穀酒類荒物商は94件と全職種において最多であり、このうち約半数に当たる45件が鎌倉米酒商組合に所属していた。組合に所属している店は、雪ノ下大倉、長谷に集中しており、これは両字が社寺との繋がりが強く、古くより栄えた地域であることを反映しているといえる。鎌倉の土産物の代表ともいえる工芸の鎌倉彫も雪の下、小町、長谷といった鶴岡八幡宮、長谷寺など近世以前から継承されている名所近くに立地していた。

さらに表-2より、字別にみた業種の分布状況についてみると、字別の総件数については長谷が74件と最多であり、次いで腰越津村が60件、大町が56件であった。

字と業種との関係性に着目すると、小町が13業種と最多であり、次いで材木座、長谷が11業種、片瀬、腰越津村が9業種であった。これらの字では商業、建設業が特徴的に多くみられる傾向にあった。小町、片瀬、腰越津村は鶴岡八幡宮や江の島の門前町として栄えたこと、材木座は新興別荘地であったこと、長谷はこれら両方の需要があったことが要因と考えられる。農林水産業は腰越津村で12件(うち魚商11件)、材木6件(同5件)、と近世の漁村の様相がそのまま継承されている様子が捉えられた。

表-1 『現在の鎌倉』掲載職種の業種分類結果

業種	職種	件数	小計	業種	職種	件数	小計	
農林	魚商	29	35	商業	米穀酒類荒物商	94	94	
	牛乳搾取販売業	6			うち組合	45 [*]		
建設業	土木請負業	26	94	商業	菓子舗	14	101	
	建具指物職	24			青物乾物商	13		
	畳職	17			小間物雑貨商	10		
	材木商	8			呉服太物商	9		
	表具師	6			獣鳥肉類販売商	8		
	硝子商	4			金物商	7		
	石材商	4			水卸商	7		
	ペンキ塗職	2			買薬化粧品業	6		
	鋳(飾)職	2			足袋職	6		
	竹材商	1			陶器商	6		
製造業	和服裁縫業	8	20	商業	骨董商	5	31	
	洋服仕立業	3			時計商	3		
	靴製造業	2			雑誌書籍販売業	3		
	綿製造業	2			家具一式	2		
	蒲団(蒲団)製造業	2			履物商	2		
	傘製造業	1			飲食業	料理店		18
	ふるい篩製造商	1				蕎麦屋		13
ラムネ製造	1	燃料関係	石炭商	2	2			
工芸	桶職	14	34	電氣業	電氣	1	1	
	染物職	9		保健・医療	醫師(医者)	22	47	
	鎌倉彫	4			産婆	12		
	佛塗師	3		薬剤師・薬局	9			
	提灯張商	3		歯科監	4			
	印刷業	1		サービス業	西洋洗濯	4	8	
	運送業	6			葬儀	1		
運輸業	旅客	2	8	髷(髪)業(写真)	3	2		
	旅館業	34		専門職	代書家		2	
旅館業	料理旅館・旅館	34	34	その他	芸妓家	5	7	
	金融業	14			常設演芸場	1		
	買商	9			組合※	1		
	銀行	4			合計	546		
印刷・出版業	印刷業	1	1					

※組合は「鎌倉米酒商組合」を指す。

表-2 字別にみた業種分類の分布状況

	農林水産業	建設業	製造業	工芸	燃料関係	電気業	運輸業	商業	飲食業	旅館業	金融業	保健・医業	サービス業	専門職	印刷・出版業	その他	小計
海濱院通り													1				1
海濱院前								1									1
江の島	4	1						5		7	1		1				19
扇ヶ谷		4						1		3	3	1					12
大倉		1															1
大町		13	4	10				19		3	1	6					56
大町原	1		3	1				2				5	2		1		15
海岸通り										1							1
片瀬	4	7	3	3			2	18	3		3	4					47
片瀬下の谷		1															1
片瀬停車場留所前									4								4
恵比寿屋支店																	1
栗山										1							1
鎌倉駅構内							1										1
鎌倉警察署構内														1			1
鎌倉停車場前								1									1
鎌倉町																1	1
川口村片瀬										4							4
鶴沼			1							2		1					4
鶴沼電車停留場前									1								1
鶴沼別荘地							2										2
極楽寺		2						1									3
腰越											2						2
腰越津村	12	6		4				27	2		3	4	1				60
小町	1	11	1	4	2	1	2	15	2	2	2	1					45
小町警察署横丁												1					1
小町下馬												1					1
小町停車場前							2										2
小町留所前										2							2
材木座	6	10	1	2			1	16	3	1	2	4	1				47
坂の下	3	1						9		1							14
十二所				1				1									2
浄明寺		1						1									2
新屋敷		1															1
大佛境内								1									1
大佛前												3					3
停車場前									6	2						1	9
電車停留場前								1									1
名越		1										1					2
二階堂		1															1
二の鳥居								1									1
長谷	4	19	1	4				33	2	2	1	6	1				74
長谷観音前									1								1
長谷通原												1					1
長谷通り								1									1
八幡前								8				2	1				12
深澤										1							1
本蓮寺前								1									1
役場構内														1			1
由井ヶ濱		5	1					7	2	1		1					18
雪の下		9	5	4				17	2		6	4	1				48
雪の下大倉										3							3
雪の下新道										1							1
雪の下八幡前				1				4	1	2							8
龍口寺下								2									2
小計	35	94	20	34	2	1	8	195	31	37	24	47	8	2	1	7	546

また、観光に特徴的な業種の分布に着目すると、分布がみられたものに着目すると、旅館業は江の島で7件と最多であり、次いで川口村片瀬が4件、この他に雪の下・小町周辺などでみられた。この分布は、既往文献³⁴⁾の近世観光における宿泊拠点とほぼ同じであり、特に江の島では岩本楼や恵比寿屋といった近世以前より続く老舗旅館などを中心する旅館街が形成されてきたことが伺える。

また、保健・医業のうち「医師」は、大仏前、大町原、材木座に各3件、腰越津村、片瀬に各2件と、海岸付近の字に集中しており、明治20(1887)年に日本初のサナトリウム「海濱院(明治45年の発刊時には「海濱院」は廃業、これを引き継いだ「海濱ホテル」が営業されていた。)」が由比ヶ浜に出来たことから伺えるように、こ

の頃においても海浜療養・海浜保養の需要があったといえる。

以上のことより、当時の鎌倉観光は近世の名所を中心とした古都観光と新興の療養・保養ならびに海水浴など海側における施設利用を目的とした別荘滞在型観光が混在した形態であったことが捉えられた。

5. 産業広告にみる観光形態と景観の商業的評価

(1) 産業広告にみる観光形態

『現在の鎌倉』に掲載された産業広告の一例を図-3、産業広告の掲載状況を表-3に示す。

『現在の鎌倉』における産業広告の記載件数は52件であり、このうち営業一覧と重複する事業者は44件であった。なお、営業一覧に掲載されず、産業掲載されている事業者はいずれも鎌倉市街のものであった。

職種に着目すると、旅館(料理旅館、温泉旅館、など)が12件と最も多く、次いで銀行、料理店が各5件、薬剤師・薬局が4件、医師(医者)が3件であった。

産業広告の掲載分量についてみると、1/2ページが30件(うち6件は分院、支店などと合わせた部分掲載)と全体の約60%を占め、このうち10件が旅館であった。

また、最も掲載分量が多い1+1/2ページの2件は、いずれも銀行であり、他の支店等が並べて記載されるため、他の事業者に比べ大きなスペースが必要となる傾向がみられた。

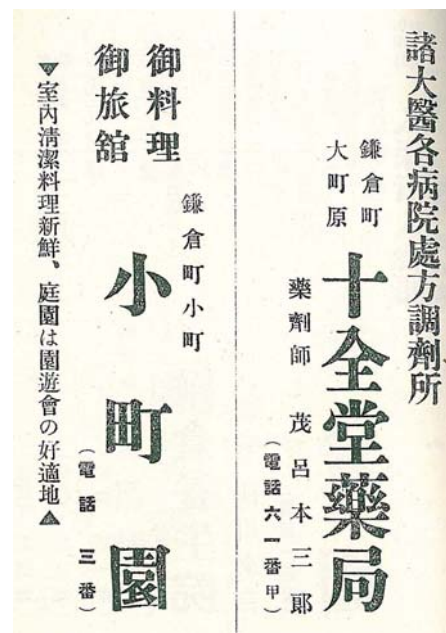


図-3 『現在の鎌倉』掲載の産業広告の一例 (2分の1ページずつの掲載例)

表-3 『現在の鎌倉』における産業広告の掲載状況

no.	業種	字名	掲載地名	名称	掲載分量(頁)	電話	広告文
1	銀行	小町	鎌倉	株式会社鎌倉銀行	1/2	○	
2	銀行	小町	鎌倉	株式会社日本実業銀行	1+1/2	○	
3	葬儀	大町原	大町原	鎌倉葬儀株式会社	1/2	○	弊社の特色は完全なる火葬場を有し神仏其他各宗教の葬祭具及奉納の生花造花放鳥之に関する人夫等一切充分なる責任を以て御親切を旨とし破格の廉価にて調進可致候。 但萬一御用命の節は御一報次第員迅速に相問わせ御相談可申候。 ※※逗子出張所、葉山出張所の所在も掲載
5	銀行	腰越	腰越	株式会社関東銀行腰越支店	1+1/2	○	
7	電気	小町	鎌倉	井上電気店	1/2	○	
8	医師(医者)	八幡前	八幡前	鎌倉養生院	1/2	○	
13	医師(医者)	名越	名越	松溪醫院	1/2	○	
26	医師(医者)	腰越津村	七里ヶ浜	恵風園	1/2		
46	料理旅館	雪の下八幡前	八幡前	角正	1/4	○	
47	料理店	雪の下八幡前	八幡前	三橋支店	1/2(部分)		
50	料理旅館	雪の下八幡前	八幡前	松岡	1/4	○	
53	料理旅館	小町	小町	小町園	1/2	○	室内清潔料理新鮮、庭園は園有會の好適地
55	料理店	停車場前	停車場前	磯見亭	1/2	○	料理の新鮮価格の低廉は当亭の特色なり。自慢の蒲焼は顧客の好評を博す。
56	料理旅館	停車場前	鎌倉停車場前	村田館	1/4	○	
58	旅館	海岸通り	由比ヶ濱	海濱院ホテル	1/2	○	
60	料理旅館(温泉)	腰ヶ谷	腰ヶ谷	養義園	1/2	○	園内に温泉湧出し諸病に特效あり、地域清潔にして静養の好適地なり
64	料理旅館	長谷	長谷	三橋樓本店	1/2(部分)	○	
66	料理旅館	坂の下	坂の海岸	海月楼	1/2	○	庭前は由比ヶ浜に接し海水浴には尤も便なり且つ眺望の絶佳なるは本樓の特色なり
79	料理旅館	鶴沼	鶴沼	東屋	1/2		庭前は海水浴に適し一望佳絶避暑避寒の好適地なり(庭内に鶴沼郵便局あり)
87	旅館(温泉)	腰ヶ谷	腰ヶ谷	米新亭	1/4		鉱泉は庭内に湧出し諸病に功效顯著なり。
88	旅館・下宿	由比ヶ濱	由比ヶ濱稲瀬河の辺り	稲流閣	1/2	架設中	
90	料理旅館	深澤	深澤山崎	山崎園	1/6		大船駅より五丁。天神山温泉。
91	料理旅館	停車場前	停車場前	三橋出張所	1/2(部分)	○	
95	料理店	停車場前	鎌倉駅前	都すし	1/4		元祖
175	米穀酒類売物商	材木座	材木座	小原牛乳搾取所	1/4	○	諸詰肉類種々
207	菓子舗	二の鳥居	二の鳥居	豊島屋	1/2	○	名物鎌倉土産
235	獣鳥肉類販売商	鎌倉停車場前	鎌倉停車場前	鎌倉速便舎	1/3	○	
236	獣鳥肉類販売商	長谷	長谷	一心亭	1/3	○	
242	牛乳搾取販売業	長谷	長谷通	柴崎牛乳店	1/4	○	
279	蕎麦屋	小町	小町	村田館 村田又次郎	1/4		
289	運送業	小町停車場前	鎌倉停車場前	内國運通株式会社鎌倉取引店	1/2	○	
295	薬剤師・薬局	八幡前	八幡前	中唐堂	1/2(部分)	○	保壽水、允中丸、調剤本舗
296	薬剤師・薬局	由比ヶ濱	由比ヶ濱	中唐堂支店	1/2(部分)	○	
298	薬剤師・薬局	長谷	長谷	中唐堂分点	1/2(部分)	○	
302	薬剤師・薬局	長谷	大町原	十全堂薬局(茂呂本三郎)	1/2	○	諸大醫各病院処方調剤所
321	雑誌書籍販売業	八幡前	八幡前	松林堂書店	1/3		
347	小間物雑貨商	小町	鎌倉停車場前	三吉屋	1/2	○	最新流行洋傘各種、季節向新形帽子類、貴費愛用化粧品類、西洋小間物其他雑貨
348	小間物雑貨商	雪の下	二の鳥居脇	塚家	1/6		
352	小間物雑貨商	長谷	長谷三橋旅館前	轉法輪或門(轉法輪洋品店)	1/4		生存競争の今日弊店は特に品質精選価格低廉を旨とし顧客に対し御便宜相計い可申候へ相變御引立の程奉願上候 敬具 尚化粧品中キセロール会社製品は拙地は一手販売にして東京三越呉服店と同価格に有之候。
476	土木請負業	小町	鎌倉停車場前	林田茂頭	1/4		
486	土木請負業	長谷	長谷新宿	加藤榮助	1/4		
544	常設演芸場	腰越津村	腰越土橋停車場横筋	腰越館	1/2		
545	旅客	鎌倉駅構内	鎌倉駅構内	人力車営業組合	1/2		
546	獣鳥肉類販売商	長谷	長谷	米久支店	1/4	○	牛鳥豚肉、西洋魚、缶詰類、食料品
-	獣鳥肉類販売商		藤沢	家畜市場	1/2		◎毎日開場(但大祭日休業)
-	獣鳥肉類販売商		藤沢		1/2	○	海軍御用生豚肉問屋屠場
-	銀行		金沢瀬戸橋側	株式会社武相貯蓄銀行	1/2		
-	銀行		藤沢	駿東官業銀行藤沢支店	1/4	○	
-	料理旅館		大山の麓(子易明神前)	かみや	1/2		室内は清潔にして料理は新鮮迅速なり。宿料は低廉にして待遇は丁寧親切なり。
-	菓子舗		藤沢町引地	亀鶴堂	1/2		東宮殿下 葉山御用御賀上品 黄金飴 内務省衛生試験場検査済 本品は柔軟「オブラート巻」に改良したる故皮の儘食せられるべし 滋養糖水飴・黄金飴 製造元 名代玉すし
-	料理店		藤沢町大塚橋前	玉半	1/6	○	
-	料理店		逗子	中華料理飯養軒	1(裏表紙)	○	風清く波静かなる

※no.は『現在の鎌倉』の営業一覧における掲載順

電話の記載は34件(うち1件は架設中)でみられ、「小町園(表-3,no.53)」の「三番」や「海濱院ホテル(同,no.58)」の「四番」,「鎌倉銀行(同,no.1)」の「十六番」などが若い番号であることからわかるように、主要な旅館や銀行では早期から電話を設置していたことが捉えられる。特に旅館は、予約を取る関係から、電話設置の需要が高かったと考えられる。

広告に掲載されている地名と営業一覧に掲載されている字名が異なるものに注目すると、両方に記載のある45件のうち22件は広告の記載地名と字名が異なることが捉えられた。

このうち「角正(同,no.46)」「三橋支店(同,no.47)」「松岡(同,no.50)」では、「雪の下八幡前」という字名が「八幡前」と記載されていた。

「村田館(同,no.56)」では、「停車場前」という字名が「鎌倉停車場前」と説明を付加する形で記載されており、「海月楼(同,no.66)」「山崎園(同,no.90)」などを含む6件でみられた。

「株式会社鎌倉銀行(同,no.1)」「株式会社日本勧業銀行(同,no.2)」「井上電気店(同,no.7)」では、「小町」が「鎌倉」と記載されており、字名を鎌倉に代用する事例は「村田館(同,no.56)」「林田茂頭(同,no.476)」「腰越館(同,no.544)」などを含む7件でみられた。これらはいずれも鎌倉駅(江ノ島電鉄では小町駅)近辺に立地しており、掲載地名に「鎌倉」と記載することで、地域における中心性や象徴性を高めようとしたと考えられる。

この他に、サナトリウムである「恵風園(同,no.26)」では「腰越津村」を「七里ヶ浜」と表記

し、「海浜院ホテル(同,no.58)」では「海岸通り」を「由比ヶ浜」,「海月楼(同,no.66)」では「坂の下」を「坂の下海岸」と表記しており,これらの有名旅館および療養院では,字名ではなく目の前の海岸名を表記することで,療養・保養ならびに海水浴観光のイメージ増幅を図ったと考えられる。

以上より近代鎌倉では,宿泊や料理,海岸療養・保養などへの予約の必然性から,旅館や料理屋,医師などを中心に電話番号を掲載した産業広告が展開されていた。特に旅館では1/2ページという比較的大きくスペースをとったものが多くみられたことより,同業同士での競争が激しかったこと,観光産業の需要の高さが把握された。

特に立地における海岸は強調されやすく,海岸の商業的価値の高さが伺えた。

(2) 産業広告文にみる景観の商業的評価

表-3の産業広告掲載事業者のうち鎌倉中心部における分布状況を図4に示す。

広告文は,産業広告全52件中22件でみられた。

図4より,これらのうち鎌倉中心部に分布した事業者39件に着目すると,広告文が存在するものは16件であった。これらの多くは鶴岡八幡宮の周辺(雪の下,大町,小町)の事業者に特徴的であり,その一方,由比ヶ浜では広告文の掲載はみられなかった。この要因として,由比ヶ浜に立地する「海浜院ホテル(表-3,no.58)」は鎌倉を象徴するほど有名な宿泊施設であり,特に広告文を入れずとも宣伝効果は十分だったとみられる。

一方,坂の下に立地する「海月楼(同,no.66)」は,広告文において「庭前は由比ヶ浜に接し海水浴には尤も便なり且つ眺望の絶佳なるは本楼の特色なり」と海水浴への利便性と由比ヶ浜への眺望が売りであることを前面に押し出すことで,観光客の足を向けようとしていたことが伺える。同様の傾向は,鶴沼の「東屋(同,no.79)」,逗子の「中華料理飯養神亭(同,下部)」のように他の海岸に隣接する観光施設にもみられ,鎌倉観光の主目的である海水浴への利便性はもちろんのこと,施設そのものの魅力として海岸眺望の良さを謳っていた。このことより,部屋からの眺望には高い商業的価値があったとみられる。

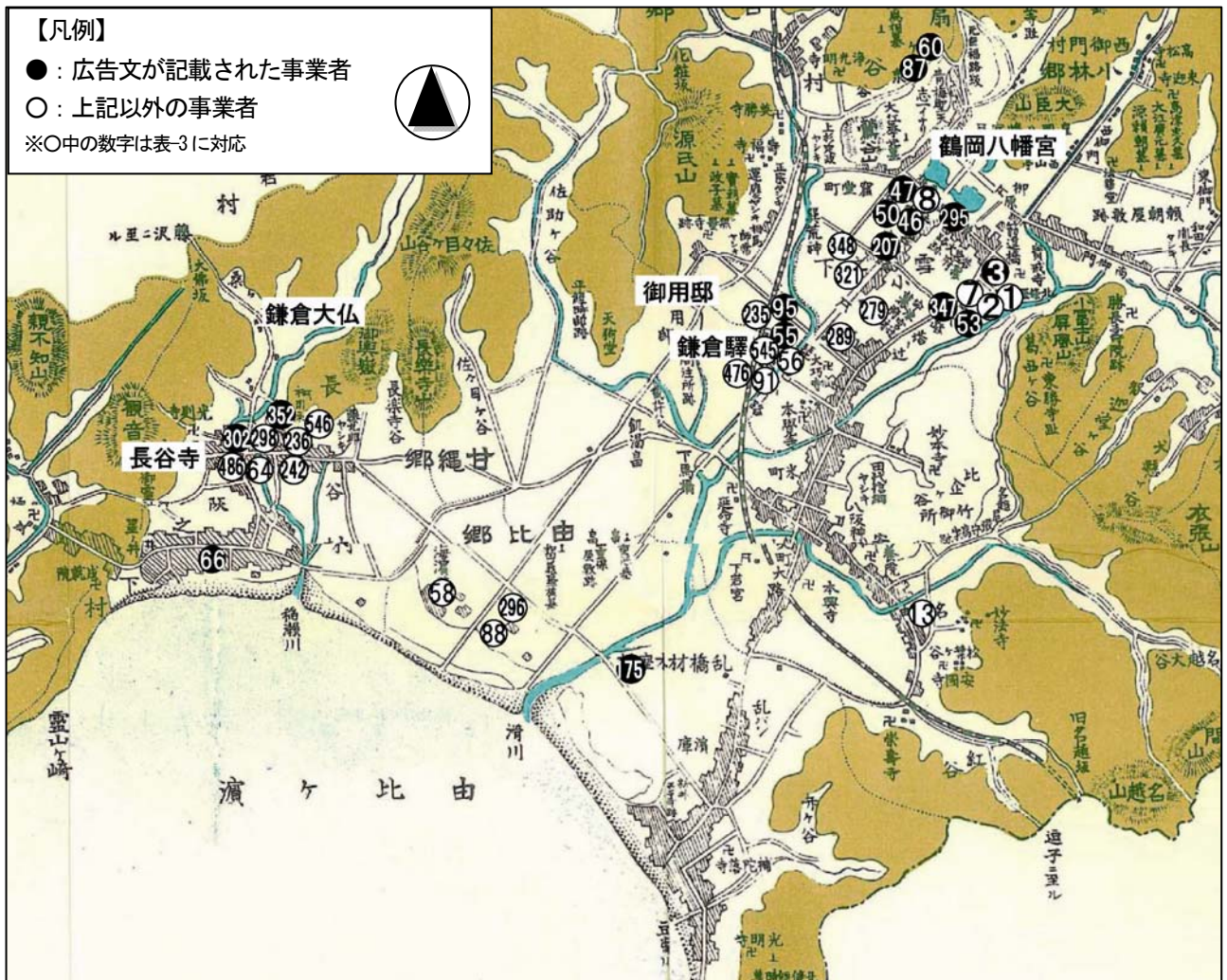


図4 鎌倉中心部における産業広告掲載事業者の分布(地図はかまくら附鎌倉案内記⁸⁾より一部転載)

※※各事業者は記載の字名に配置した。

内陸部の事業者に着目すると、扇ヶ谷に立地する「養気園(同,no.60)」では「園内に鑛泉湧出し諸病に特効あり、地域清潔にして静養の好適地なり」、小町の「小町園」では「室内清潔料理新鮮、庭園は園有會の好適地」、のように、温泉による健康への効果や衛生面、料理の新鮮さ、庭園の素晴らしさといった、敷地内で得られる快適さを謳っていた。

同様の傾向は、停車場前の「磯見亭(同,no.60)」、大山の麓の「かみや(同,下部)」でもみられた。

また、広告文が単語のみのものは10件あり、「小原牛乳搾取所(表-3,no.175)」の「諸缶詰肉類種々」など小売店で多くみられた。このうち「(事業者名なし) 獣鳥肉類販売商(同,下部)」の「海軍御用牛豚肉問屋屠場」のように、鎌倉別荘地と海軍の繋がりを示す記述や、「豊島屋(同,no.207)」の「名物鎌倉土産」のように鎌倉におけ独自性を謳うものもあった。

以上の傾向より、海岸そのものに観光価値があった近代鎌倉において、由比ヶ浜は鎌倉ブランドの象徴といえる存在であり、由比ヶ浜に立地する観光施設では立地そのものが、他の字では海水浴への利便性や海岸への眺望が魅力として謳われていたことが捉えられた。特に海岸眺望は、施設そのものの魅力を引き立てることから商業的価値の高いものとして認識されていたとみられる。

一方、内陸では、療養・保養客確保のため、健康・衛生面を前面に押し出した広告文を記載しており、景観への言及は施設内の庭に留まっていた。

6. まとめ

本研究では、『現在の鎌倉』に掲載された「営業一覧」と「広告」からの読み取りより、事業者側から捉えた近代鎌倉の観光形態および景観の商業的評価を捉えた。

近代鎌倉の観光形態では、鶴岡八幡宮や長谷寺など近世の徒歩観光の滞在拠点を中心に小売店や観光施設が事業展開している一方で、これらと新興の療養・保養ならびに海水浴など海側における施設利用を目的とした別荘滞在が混在したものであったことが捉えられた。

近代鎌倉観光において最も脚光を浴びた由比ヶ浜では、海浜ホテルのように立地する観光施設だけでなく、由比ヶ浜への眺望、あるいは海水浴の利便性なども商業的価値の高いものとして扱われていたことが示された。

一方で、今回対象とした事業者の約3割は現存しているが、事業を変更をしたもの、鎌倉内外に移転をしたものもみられる。今後は、これらの実態を把握することにより、近代以降の鎌倉観光ならびに景観の商業的価値の変容を捉えることが課題といえる。

謝辞：本研究の資料調査において鎌倉市在住の島本氏には多大なご協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。日本大学理工学研究科不動産科学専攻の瀬畑尚紘氏と日本大学理工学部社会交通工学科の景観工学研究室のゼミナール生には資料および現地調査にご協力いただきました。心より感謝いたします。

参考文献

- 1) 加藤理：<古都>鎌倉案内，pp.44-58，洋泉社，2002
- 2) 鎌倉市市史編さん委員会：鎌倉市史近代通史編，吉川弘文館，1985
- 3) 押田佳子，横内憲久，岡田智秀：十返舎一九「金草鞋」を通じてみた近世鎌倉観光における通過地点の景観構成とその観賞形態に関する研究，ランドスケープ研究，Vol.73，No.5，pp.519-522，2010
- 4) 押田佳子，横内憲久，岡田智秀，瀬畑尚紘：紀行文より捉えた近世鎌倉における観光経路および滞在拠点の成立過程に関する研究，ランドスケープ研究，Vol.74，No.5，pp.431-436，2011
- 5) 大橋良平：現在の鎌倉，通友社，1912
- 6) 島本千也：海辺の憩い，私家版，2000
- 7) 島本千也：鎌倉別荘物語，私家版，1993
- 8) 大森金五郎：かまくら附鎌倉案内記（復刻版），1976（原書1925）